

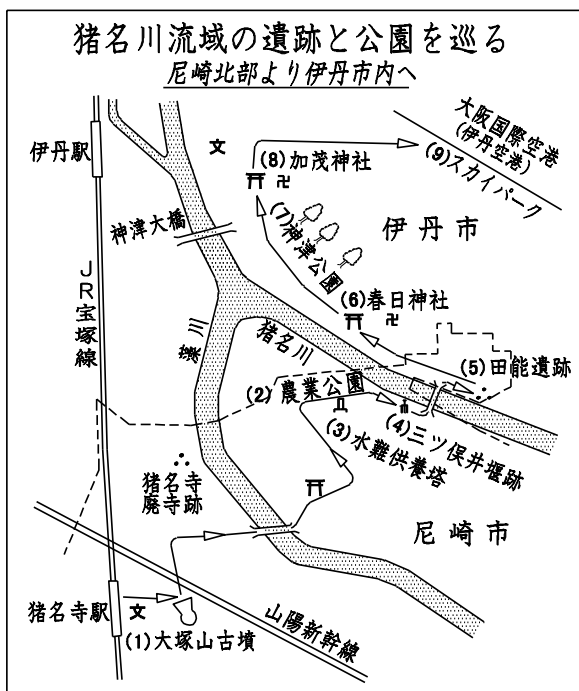
猪名川流域の遺跡・公園ガイド

尼崎北部より伊丹市内へ

5月24日(木)、JR猪名寺駅を出発点としてスカイパークまでの、猪名川流域の遺跡と公園を巡るコースをガイドした。

ガイド依頼は神戸のグループで、同会はこれまでBコース、Dコースを歩いており、今回で3度目となるリピーターである。当日は会の参加者25名を木曜班6名が案内した。

[集合] JR 猪名寺駅→①大塚山古墳→②農業公園→③水難供養塔→④三ツ俣井堰跡→⑤田能遺跡→⑥春日神社→⑦神津公園→⑧加茂神社→⑨スカイパーク [解散]



①大塚山古墳

6世紀中頃の前方後円墳であるが、昭和初期に土取り作業で壊された。現在は児童公園に1/2に縮小した築山がある。鉄製の木工具馬具類などを副葬していることから、埋葬者は5世紀の初め頃から当地に住み着いた、渡来系の木工技術集団の首長とみられている。

②農業公園

尼崎市が管理する公園で、梅、桜、ボタン、バラ、フジ、花菖蒲、ヒマワリ、コスモス等が植

えられ、四季折々の花が切れ目なく楽しめるように工夫されている。

訪れたときはバラのシーズンで、さまざまな色彩の花が咲き誇っていた。時間の都合上ゆっくり見学できなかったのが惜しかった。

③水難供養塔

猪名川は古来たびたび洪水を発生しているなかでも元文5年(1740年)、江戸期最大の洪水が発生した。上流の多田銀山付近で被害が発生し、多くの溺死者が当地に漂着した。これを悼んで田能、慶徳寺の住職が宝篋印塔(ほうきょういんとう)の供養塔を建立した。

供養塔は今も古堤防の木立の中でひっそりと歴史を刻んでいる。



古堤防木立の中の供養塔

④三ツ俣井堰跡

三ツ俣井組は田能および下流の計6カ村の水利組合である。当地で猪名川に取樋口を設けている。井溝は東、中、西溝の3筋に分かれ17世紀初めにはすでに井溝が通じていたとされている。井組間、同じ井組内においても水利に関する争いが多々発生し、古文書、絵図等の記録に残されている。



三ツ俣井堰跡にてガイド

⑤田能遺跡

昭和 40 年、工業用水配水場建設現場で大量の土器が発見され、急遽、発掘調査が行われた。調査の結果、貴重な遺物、遺構、墓が発掘され、弥生時代(約 2,300～1,700 年前)全期に及ぶ大集落跡であることがわかり、昭和 44 年に国の史跡に指定された。

遺跡は約 3m の盛土により保護し、史跡公園として整備され資料館、復元住居等が設けられ、歴史学習の場として利用されている。



復元した高床式倉庫

⑥春日神社

かつては猪名川と藻川の分流による中州に所在していたが、酒井の古文書によると天正 8 年(1580 年)現在地に移されたとされている。

⑦神津公園

猪名川の古堤防跡の公園で、クス、ムクノキの大木が茂り、緑に囲まれた散歩道である。

⑧加茂神社

創建は伝承によると 14 世紀末頃であり、現在の社殿は昭和 51 年に改築した。祭神の加茂別雷神は、農業用水を守る神様で、また村人を諸々の災いから守る神様である。

⑨スカイパーク

本日のガイドの最終地。広々とした空間で離着陸するジェット機の轟音を聞くと、弥生～江戸時代から現代に戻ったような気分がする。

皆様どうもお疲れさまでした。また伊丹を訪れて下さい。お待ちしております。

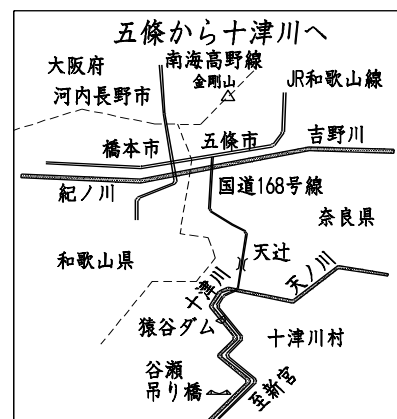


五條と天誅組・十津川・吊り橋

春季研修バス旅行

恒例の春季研修バス旅行は5月 15 日(火)奈良県五條市および十津川村を訪ねた。

五條は奈良県中西部に位置し、大阪府、和歌山県に接する。古くから東に向かう伊勢街道、西へは紀州街道、南、北へは西熊



野街道河内街道、と陸路の要衝であり、また紀ノ川、吉野川の水運中継地として栄えた。

市内の新町通り、天誅組の足跡を、五條市観光ボランティアガイドの皆様に案内して頂いた。

新町通り

約 400 年前の慶長年間、ときの二見城主、松倉重政が城下町の振興のため、市内の伊勢街道沿いに商人の町として整備したもので宿場・商業の町として発展した。現在も漆喰塗りの壁や虫籠窓、格子の家々等、当時の景観を残す町並みが残し、さながら江戸時代にタイムスリップしたような印象を受ける。当地区は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

なかでも栗山邸(重要文化財、非公開)は棟札に慶長 12 年(1607 年)の銘があり、建築年代の判明しているものでは日本最古の民家といわれている。



栗山邸



新町通りを巡る

天誅組の変

尊王攘夷の機運が高まる文久 3 年(1863 年)8 月、尊王攘夷の断行を祈願するため、孝明天皇の大和行幸が朝議で決まった。

天誅組は天皇の大和行幸に先立ち「皇軍御先鋒」と称して倒幕の魁(さきがけ)たらんと、当時、幕府の直轄地であった五條代官所を襲撃、五條新政府を号した。

しかしその翌日、公武合体派により、過激な攘夷派を追放する政変が起きた。大和行幸は中止となり、挙兵の大義名分を失った天誅組は賊軍とみなされ、幕府追討軍に追われる立場になった。彼らは吉野各地で苦しい戦いを続け、翌 9 月、東吉野村で最期を迎えた。

天誅組の挙兵は幕末における下級武士と豪農豪商とが一体となった最初の武装反乱で倒幕及び明治維新の魁と評価される。明治維新の実現はこの変のわずか5年後である。

天誅組の悲話を志士の辞世の句を交えて切々と語る五條市観光ボランティアガイド女性の名調子に、我々一同しんみりと聴き入った。来年は天誅組の変 150 周年にあたり、地元では各種の記念事業が計画されている。

十津川村

五條をあとに、国道 168 号線を南に下ると、道路は山の斜面にへばり付くような険路で、現在でも雨が降ると頻繁に通行止めになる。

昨年9月の台風豪雨による土砂崩れ、土砂に埋まった溪流等の被害が各所に見られた。

古来、十津川は免租の地といわれているが、険しい山岳地形のため農耕用地は殆どなく、租税の掛け様がないのが肯ける。

外部と隔絶した環境のため、時の権力の支配を受けず、独立独歩の

気風を育て、半ば独立した村落共同体として存在し続けた。江戸時代に入

っても五條代官所の下で天領として免租され、住民は郷土を名乗ることを許された。

谷瀬の吊り橋

長さ297m、高さ54m、人専用鉄線吊り橋で日本有数の規模である。現在では十津川村を代表する観光スポットになっているが、もともとは地域の生活用の橋である。昭和29年、地元民が1戸当たり当時の金額で20～30万円の資金を出し合って架けた橋といわれている。

明治22年の大水害で北海道に移住して、新十津川村を創立するなど、十津川住民の独立独歩の心意気に想いを馳せながら、ゆらゆらと揺れ動く吊り橋を渡り歩いた。



菱十紋 十津川村章



旧五條代官所長屋門にて

日蓮宗の西国伝播

伊丹妙宣寺、大物崩れ、堺幕府 中川 康

日蓮は死に臨んで本弟子六人を定めた。

日昭、日朗、日興、日向(にこう)、日持、日頂の六老僧である。彼らは日蓮の死後、各地に師の説を広めるように期待された人々であった。彼らはそれぞれ門流を形成して、分裂や競合を繰り返した。門流の弘通活動は考え方やよって立つ地盤などで異なっていた。

建武元年後醍醐天皇による親政が始まるが、すぐに足利尊氏が離反し、南朝北朝に分かれ、尊氏は京に室町幕府を開府する。

各門流は政治・経済・文化の中心地である京都への弘通を目指すことになる。

日朗の門流の**日像**は、永仁二年(1294年)に上洛し、大工や酒屋などの町衆を中心に布教につとめ、永仁三年(1295年)柳屋仲興の帰依を受け、五条西洞院に一字を建立する(妙法華経寺と号した)。しかし、比叡山を中心とする他宗に迫害され、徳治二年(1307年)に朝廷により土佐に流罪となった。その後もたびたび流罪を経験する三黜三赦(さんちつさんしゃ)の法難が、元享元年(1321年)には、今小路に妙顕寺を建立し、独自の日像門流(四条門流)を形成する。次いで、元弘三年(1333年)、この妙顕寺は後醍醐天皇の京都還幸の祈願を託され、還幸(かんこう)が実現した。このことにより、尾張・備中に三ヶ所の寺領が寄進され、次いで、建武元年(1334年)には後醍醐天皇から「勅願寺」の綸旨を賜わった。さらに、妙顕寺は足利將軍家の祈祷所となり、揺るぎない地位を獲得した。

妙顕寺の二世大覚大僧正**妙実**(みょうじつ)は公家の名門近衛家に縁故のある出自といわれ、日像上人の右腕として活躍した。

公家や武家と妙顕寺の接近をはかり、備前・備中・備後の布教に功績を残している。

文和三年(1354年)大覚大僧正は早魃で

苦しむ伊丹大鹿村の村民に請われて雨請祈祷を行い、村民の願いに応えたので、真言宗であった寺・村民を法華宗に改宗したと伝えられている(大鹿丸法華)。

日隆は、幼少にて越中遠成寺(おんじょうじ)に入り得度して深円と改め、やがて京都妙顕寺に日存、日道を訪ね、四世日霽(にっさい)の門に入り、慶林坊日隆と名のつた。京都で布教を続けていたが、当時の墮落した法華信仰を糾し、日蓮の示す正統な法華信仰を復興するため、応永二十二年(1415年)仏光寺通りに「本応寺」(後の本能寺)を創建し、本門八品上行所伝のお題目を人々に説き、妙本寺の月明を諫めた。これを恨んだ月明達は応永二十五年(1418年)、本応寺を破却し、刺客を送って日隆の殺害を図った。日隆は、かろうじて難を逃れ、北河内から尼崎へ布教を続け、本厳寺、本興寺を創立した。京都本能寺を再建布教道場とし、本興寺を教学道場として、近畿・中国・四国各地へ布教を続けた。堺に顕本寺、加納に法華寺、敦賀に本勝寺、色ヶ浜に本隆寺、兵庫に久遠寺、岡山新庄にも本隆寺、牛窓に本蓮寺、四国宇多津に本妙寺を次々と創立していった。伊丹には大覚大僧正の縁故をたどって大鹿に至り、妙宣寺の寺号・寺院を形成していったと考えられる。

妙宣寺には「南無妙法蓮華経」の本尊曼荼羅など、日隆以降歴代の高僧の曼荼羅が伝蔵されている。



木造日隆上人坐像

日隆の布教により寺院が建立された場所は、大阪湾岸では、材木の集積地であった尼崎、奈良の外港としての堺、勘合貿易の出発地である兵庫津などであった。また讃岐国の細川氏の守護所である宇多津などで勢力を伸ばしており、日隆の布教によって法華宗信者となった都市商工業者が武家領主と結

びついている点が重要である。日隆門流の両本山である京都の本能寺と尼崎の本興寺が全国の諸末寺の住持職を掌握して、本山への参詣を義務づけていた。武家権力はこのような都市工業者の富力や人・物の流れを支配しはじめた。室町幕府管領であった細川高国は、永正十七年(1520 年)近江六角氏との戦争に際して兵庫津の大船を徴発し、大永六年(1526 年)には尼崎城を築城するなど、都市支配や軍事動員を目指した。大永七年(1527 年)、細川晴元らは、三好兄弟をはじめ四国・阿波国人の軍隊を主力に、細川高国と戦い京都の決戦(桂川の合戦)に勝利した。高国方は 12 代将軍足利義晴を奉じて近江に逃亡した。このとき、幕府の奉公人も下向しており、近江朽木谷へ亡命中の義晴・高国方の政務事務を行う機関の存在もなく、室町幕府は一旦崩壊・途絶した。

足利義維(よしつな)が「堺公方」といわれ、管領細川晴元とともに、阿波の国人である三好元長の推戴を受けて、港湾都市である堺を事実上の政権所在地とする、いわゆる「堺幕府」をつくるにいたる。幕府の本拠は堺市中にあった顕本寺に構えた。ところが、この堺幕府の内部は、三好元長ら阿波国人衆だけでは一統支配することができず、山城後背地を握っていた柳本賢治(やなぎもとかたはる)と茨木長隆(いばらきながたか)ら摂津の有力国人衆の連衡政権であった。このため、はじめに三好元長が柳本賢治と山城守護職をめぐる争い追放した。次いで、前政権の細川高国らを「大物崩れの戦い」で殲滅し、堺幕府は不動の地位を確保したかに見えたが、今度は摂津国人衆と阿波国人衆との権力闘争が激化した。摂津国人衆は、台頭してきた一向宗門徒 10 万の



大物崩れの石碑

大軍を引出し、享禄五年(1532 年)幕府本拠のあった堺顕本寺に三好元長らを包囲して自刃させた。これによって、五年余にわたって存続した堺幕府は滅亡した。〈以上〉

寺内町と寺町

亀井 尚

寺内町の歴史的特質は、今日学者の研究成果があげられるが、浄土真宗教団が近畿各地に波状的に発生、寺内での生産物によってどの寺内町でも生産品の販売により、他の集落には見られない過重な富を獲得、諸大名の垂涎の的となり、我が国の近代化の魁となったことである。そして今なお、かつての繁栄の面影を感じさせることである。都市の形態は、ほぼ理想的な成り立ちであったと想像できる。

ポルトガルの宣教師ルイ・フロイスは石山本願寺を訪ねているが彼は、少々悪意に満ちた観方で本国に「一部の真宗坊主が富を独り占めにしている」とイエズス会への通信文に書き送っている。

著者不明だが『長島顕正寺と織田信長』から寺内町の定義について引用させていただくと、『農民の殆どは支配階級による搾取を受け、貧困に喘いでいたが、農民の指導者は名主、末寺の僧侶であり、次第に経済力を付け、職人を抱えたり、商人が出入りするほどにも発展した。また寺内町防備のため、私兵を雇い、自ら武装して地侍と呼ばれ、彼らを中心に職人、商人そして農民たちは一つの地域社会を構成し、政治経済活動の単位となっていた。しかも彼ら是一向宗の門徒であり、その中心に寺があり、この孤立した地域社会を寺内町と呼ばれた』と的確な定義が示されている。

また、『真宗と資本主義』の著書がある後藤文利近畿大学教授の寺内町についての論議を次のように紹介している。

「そもそも寺内町というのは浄土真宗を中

心に商人が集まり、自治体を作った集団である。寺内町は戦国大名の存在から遠ざかるほど確固とした組織になり、勢いも強い。長島(北伊勢 現桑名市)願証寺もこの例に漏れず海や大河川に近く、交易が盛んとなり、大寺内町に発展した。」

また後藤先生は大坂石山本願寺の周囲の地勢地形の共通項として次のように述べておられる。「ちょうど長島は大坂における船場とか中之島辺りに似た地形である。淀川が木曽川、揖斐川に相当し、大阪湾が伊勢湾に相当する。武庫川、神崎川、猪名川は町屋川、矢作川、堺川に相当するであろう。」

蓮如の布教線上に浮かぶ寺内町は、地形地勢、立地などの条件に共通のものがあることに気がつく。

「寺内町は浄土真宗教団が築いた寺を中心とした町である」という説に対して、尼崎の大物に本興寺、長遠寺といった日蓮・法華宗の寺内町があった。また京都は日蓮系宗派がいち早く寺内を築いていた。真宗寺院中心という表現は適当ではない、という学者もあるが、大物の寺内町は本興寺を中心に信者が集まり、形成されたが、浄土真宗系の寺内町とは成り立ちから根本的に異なる。

本興寺寺内町は、三好長慶の後ろ盾で出来たもので、まず本願寺の大物の惣道場が破却され、本興寺の寺内町に取り込まれた。荒地を新たに開拓して寺内町を建立したのではなく、弘治元年(1556年)三好長慶惣社の中に貴布弥(貴布禰きふね)屋敷を門前寺内町として、本興寺に寄進した。三好長慶によって様々な権限が与えられた。法華宗と三好氏の結びつきは堺でも顕在、都市共同体を主導する有力商人が本興寺内に建物を建立、三好氏との繋がりは強固なものであったと確認される。

だが三好氏は目的を達すると法華宗との脱却の動向を示し始める。後ろ盾を失った法華宗系統の寺内町は急激にその機能を失う。

尼崎においては本興寺自らが、領主戸田氏

の命により、守城の戦略的見地から大物から寺町に強制的に集められ、今日までその位置を留めている。

ある学者の説によると、真宗系の寺内町の形成に守護の公権力としての保証があったことが解明されたとあるが、これは事実と大きくかけ離れている。浄土真宗系の寺内町として、第八世蓮如上人が京都を追われ、各地を布教して回ったあと福井吉崎に居を構え、文明3年(1471年)吉崎山に吉崎御坊を建立した。

吉崎御坊の立地は標高32mの丘の上に立っており、三方を北潟湖に囲まれ、北東が山地という要害の地で城郭寺院的色彩が強かった。有名寺内町は、奈良今井町、八尾久宝寺小浜、塚口、富田林、貝塚などいずれも自然の川、人工的に掘られた堀等の囲郭寺で、惣構えは浄土真宗寺内町を嚆矢とする。城の惣構えは後発である。



塚口御坊の後身 正弦寺

寺 町

11 カ寺が軒を連ねる寺町は尼崎城の西側に作られた町である。元和3年(1617年)、譜代大名戸田氏鉄が近江膳所より尼崎へ五万石大名として所替えになり、それから3ヶ月後の元和3年10月、幕府から尼崎に新城を作る



尼崎寺町 本興寺

よう命じられ、現在の北城内・南城内に当たる場所を選び築城を開始した。築城は同時に東西に城下町を整備し、新城の予定地にあった寺院を城の西側集め、寺町を形成した。「今日に至るまでに藩主の交代に伴い移転や廃寺等により当初からの寺院配置ではないが、これが現在まで続く寺町である。町場から分離して寺院の力を弱めるとともに、巨大な建物群である寺院を配置して城に対する防備の役割をもたす目的があったと考えられる」(尼崎史跡、文化案内より抜粋)

法華宗の本興寺は11ヵ寺の中で一番大きく重要伽藍は現在でも他の寺院を圧倒しており建造物の幾つかは国の重要文化財に指定されている。

〈以上〉

活動記録(5月～7月)

定例会

・5/8(火)、6/12(火)、7/10(火)

案内ガイド

・5/16(水)岡田家(稲小同窓会 尼崎)・5/19(土)F コース(大阪ハイキングクラブ 大阪)・5/19 岡田家(鳴尾町6丁目老人クラブ 西宮)・5/24(木)F コース(松寿会 神戸)・5/24(木)岡田家(同窓会 神戸)・5/26(土)岡田家(ハイキングクラブてくてく 富田林)・5/27(日)C コース(茶華道遠州会 京都)・6/6(水)岡田家(十八期ハイキングクラブ 富田林)・6/20(水)A コース(芦屋川カレッジふたば会 芦屋)・6/20 岡田家(関八会 川西)・6/24(日)岡田家(薮田婦人会 姫路)・7/4(水)A コース(阪神シニアカレッジ 市内)・7/7(土)岡田家(兵庫県建築士会阪神支部 西宮)・7/8(水)岡田家(F友会 西宮)・7/26(木)岡田家(伊丹市姉妹都市協会 島根県)

歴史ロマン体験学習支援(スカイパーク)

・5/26(土)冠づくり・
6/9(土)管玉づくり・
7/7(土)勾玉と管玉
で首飾りをつくる



野外研修

・5/15(火)春季バス旅行 五條、十津川方面

どんぐり座公演

・5/20(日)有岡センター・5/27(日)岡田家・
6/14(木)鈴原小学校・7/17(火)南小学校

有岡城跡の清掃

・5/22(火)・6・26(火)・7・24(火)



今後の予定(8月～10月)

定例会

・8/14(火)・9/11(火)・10/9(火)

案内ガイド

・8/8(水)岡田家(F友会 西宮)・8/16(木)岡田家(関西大学社会学部 大阪)・8/24(金)Aコース(シニア自然大学そら組A 茨木)・10/17(水)Bコース(阪急「観光あるき」事業)

わくわく教室 中央公民館

・8/28(火)13:00～ 紙芝居と勾玉づくり

歴史ロマン体験学習支援(スカイパーク)

・8/4(土)羅針盤をつくろう・9・1(土)宝の地図をつくろう・10/13(土)望遠鏡をつくろう

どんぐり座公演

・9/4(火)春日丘センター ・9/29(土)三軒寺前
広場

有岡城跡の清掃

・8/28(火)・9/25(火)・10/23(火) 9:30～

編集後記

当通信は年4回、春夏秋冬の3ヶ月ごとに発行している。夏の8月1日号を発行した8月はやれやれと、まずは休憩の月とします。会員の皆様も暑さ対策として休憩して下さい。また深夜のオリンピック中継観戦で寝不足にならぬように気をつけましょう。(T M)